

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Contains details for Merit-Life Co., Ltd.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL address: http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=...&ServiceCd=320&Type=search

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく生涯を送れることを願いとし信じ合える希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。具体的には、ご自宅での生活状況が、入居しても延長したもとなるよう配慮しながらご自宅に近い環境となるよう努め、支援させて頂いています。馴染みのある家具や道具に囲まれながらの食事作り、畑仕事、地域の交流などで、生活のリズムを通して、忘れていた昔の自分を取り戻し、穏やかに日常が過ごせるよう支援に努めております。また、職員一人ひとりが、入居者様と生活を共にしていることを常に意識し、ゆつくりと関わりをもち、落ち着いた環境でコミュニケーションを図っております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Details for 特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット.

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、千歳駅から車で10分ほどの静かな住宅街に位置し、病院やコンビニに隣接している。建物は鉄筋コンクリートの3階建て、3ユニット27名の利用定員である。開設して17年目に入り、周辺地域と良好な協力関係を構築し、運営推進会議や町内会の餅つき大会などで相互に交流している。今年度は、地域のネットワーク事業の見学ツアーを受け入れ、さらに地域住民への事業所の理解と啓発に向け活動している。職員は、充実した研修で実践力を身に付け、穏やかな笑顔で、利用者主体の視点に立ち丁寧なケアに取り組んでいる。介護計画作成に係るアセスメントシート等の様式を変更し、利用者の状況の把握と課題分析が容易にできるよう工夫している。また、健康面を支える病院受診は、常に傍にいる職員が付き添う事で、医療関係者と状況に即した連携を可能にしている。馴染みの環境で多くの看取りケアを実践している。今回の新型コロナウイルス感染症の拡大防止については、早期からきめ細かな予防対策に取り組み、利用者、家族とコミュニケーションを重ねながら信頼関係のもとで、一歩先行く安心、安全なサービスに向けて取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff/user interactions.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者やリーダーはユニット会議・申し送りの場・業務中で空いた時間などを利用し、日頃から職員に対し、理念の内容を意識したアドバイスや指導を行っている。新型コロナウイルスの影響により、現在、申し送り、会議は自粛している。	開設当初からの理念であり、職員は日常のケアサービスの実践を通して理解を深め、共有している。早い段階から新型コロナウイルス感染予防の対策を行い、現状のサービス提供に制限はあるが、利用者の安全、安心を第一に、統一したケアに臨んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流では、文化祭・社会福祉協議会などの地域資源を積極的に参加や利用し、地域ボランティアとの交流が深まるように支援している。新型コロナウイルスの影響により、現在は全ての活動を中止としている。	長年地域活動に参加しており、良好な友好関係を築いている。毎年、利用者の習字の作品を地域文化祭に出展し見学している。傾聴や演芸など多彩なボランティアの来訪があり、地域祭りでは子供神輿の披露なども恒例行事として継続できるように取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の集まりに参加した時は、入居者様のプライバシーに十分配慮しながら、認知症ケアの啓発に努めている。現在は、新型コロナウイルスの影響により全ての活動を中止としている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各関係様方に参加依頼し、運営推進会議を開催している。ホーム側の取り組み状況、地域との連携について等を話し合っている。外部や家族様からの評価・提案・報告をいただくことで、サービス向上に繋がっている。現在、新型コロナウイルスの影響により開催はしていない。	運営推進会議は、利用者・家族、行政、町内会や民生委員等の参加により、定期的に開催している。定例報告のほか、防災や終末期ケア、地域情報等の議題で質疑応答が深まり、開かれた運営として双方の理解につながっている。全家族に議事録を郵送し、会議への参加を促している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携については、本部職員、管理者が中心となり働きかけを行っている。新型コロナウイルスの影響により、ホームの現状を報告し、不足している消毒液、マスクを提供してもらっている。また、介護医療連携センターの活用も提案してもらっている。	行政とは随時連携しており、加算や医療連携に係る制度等の運用などを相談し、助言や指示を仰いでいる。市の担当課より、新型コロナウイルス関連では不足物資等の支給があり、緊急時対応でも協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全職員が身体拘束の内容を正しく理解できるよう内部の研修を中心に学ぶ機会を設けている。日頃から、入居者様の対応で改善すべき部分はないか、特にスピーチロックに焦点をあて振り返るようにしている。身体拘束廃止適正化委員会の設置、マニュアルの整備にも取り組んでいる。	運営推進会議内に適正化委員会を設置し、拘束に当たる内容について学んでいる。法人4事業所の合同研修や講師を招いた内部研修を行い、意識啓発を図っている。スピーチロックへの日常的な注意喚起や身体外傷の確認とその検証を行うなど、事業所全体で身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待法の定義やその内容について会議などの時間を利用し説明をしている。虐待関連の研修を内部・外部研修に参加し全職員が内容周知を図っている。新型コロナウイルスの影響により、現在は会議、外部研修の参加などは行っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を中心に学ぶ機会を設け、研修に参加できなかった職員にも会議の場で情報を提供をしている。今後も定期的に学び、成年後見制度が必要となった時にスムーズに活用できるよう努めていく。現在は、新型コロナウイルスの影響により研修は行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には時間をかけて家族様と十分なやり取りを行い、同意を得てからサインをいただいている。入居が長くなると当初の契約事項を失念している家族様もいるため、管理者より再度説明を行うケースもある。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や定期的な電話連絡、受診後の結果報告などの際に家族様からの意見や要望を確認している。言い難い要件に関してもリーダー・管理者が主となり聞き取りを行ったり、意見箱などで意見を反映できるようにしている。	家族からはサービスについて率直な意見等が出され、現状を伝えながら、意見等は速やかに返答し対応している。面会自肅の経過では、ビデオ通話を取り入れたり、利用者の様子や受診状況なども頻回に電話連絡をし、利用者の声も聞いてもらっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務の中で疑問や要望に思うことを聞き取り、まとめたものを月に一回、全ホームが集まる会議で報告・提案している。現在は新型コロナウイルスの影響により、集まる機会を自肅し、電話連絡を主に検討、対応をしている。	現在は、集会やユニット間の行き来を自肅しており、内線電話や書類で、共有や対話方法を工夫している。管理者と職員の意思疎通はスムーズに行われており、非日常の場面であるが職員の意見等を聞き取り、適切なサービスの提供と職場環境作りに努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の経験年数や資格取得状況に応じて賃金に反映することで、業務をする上での向上心に繋げている。介護職員処遇改善加算の申請も行っている。日常の業務内の取り組みでは、リーダーや管理者が窓口となり日頃の会話などから就業環境への意見や要望を汲み取るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修及び外部研修の受講を推進し、勤務上受講が出来なかった職員にユニット会議などで報告や資料配布を行い内容を周知し、職員の質の確保・向上に努めている。現在は、新型コロナウイルスの影響により内部研修・外部研修が全て中止となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員不足から同業者との交流の場に参加する機会が少なくなってきたが、事業所が加盟している研修会などに参加できる時は、交流を図ることができている。現在は、新型コロナウイルスの影響から、外部との関わりを控えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談及び見学案内の際に不安なことや希望についても可能な限り汲み取るように努めている。家族様や医療関係者、ケアマネジャーなどからの情報提供を依頼し、現状の把握に努め、本人様の安心に繋がる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の見学案内や面談などで家族様や本人様の不安や要望の聞き取りを行っている。一度で、不安が解消できていない時は、話し合いの場を適宜設け、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時に必要な支援や優先度などについての説明を行い、専門的な立場から家族様と相談し、決定している。入居者様と家族様の希望が一致しない場合もあり、その際は管理者と職員で話し合いを行い、家族様に報告している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑仕事・料理・掃除等の日常生活の中で、昔の風習や知恵等を入居者様から教えていただきながら一緒に活動を行い、暮らしを共にする方達との関係性を築いている。現在は、新型コロナウイルスの影響から自粛傾向にある。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細なことでも面会時には家族様に報告を行っているが、各家庭の事情もあり、頻回に面会に来れない家庭もある。その時は、ケアプランの内容報告時や受診後の報告等の電話連絡時に、直接入居者様と話していただく場面も大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様や家族様からの情報を元に、馴染みある場所へ行くことが出来るように行事支援を主として行っている。内容によってはプライバシーに関わることもあり、家族様と慎重に打ち合わせなどを行っている。現在は、新型コロナウイルスの影響により外出を控えている。	家族と一緒に自宅帰宅や墓参に行く利用者もいる。また、家族のほかに友人等の来訪もあり、寛いでふれあう機会が持てるようにしている。入居して間がない利用者にとっては今までの環境の継続を心得て、親しい人達との定期的な電話のやり取りを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性や相性などを考慮し、一人ひとりが孤立しないようにテーブルやいすを配置している。現在は、新型コロナウイルスの感染予防から、入居者様には一定の間隔をあげて過ごしていただくよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後については、家族様の意見やアドバイスを真摯に受け止め、その後の支援により良く反映できるように努めている。契約終了後もウエスの提供やボランティアに相談していただいたりと関係性が築けている。現在は、新型コロナウイルスの影響により控えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活を通して一人ひとりの希望や意向を選択していただき、入居者様から情報を聞き出すようにしている。聞き出すことが困難な方は家族様から聞き出したりと本人の気持ちを第一に考えるよう努めている。	一人ひとりの利用者に応じて意向の引き出し方を工夫している。日常で発した言葉や以前聞き取った情報、家族からの情報を参考に本人の視点で検討し、独自のアセスメント要約表で情報の整理と蓄積を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴や馴染みのある暮らし方、生活習慣などの情報を集め、自宅などで行っていた暮らし方をホームで継続して行うことが出来るように可能な限り支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、職員間の申し送り、身体面からはバイタルチェックなどから、一人ひとりの生活リズムを把握している。出来ない所と出来る所を見極め、残存能力にも活かした働きかけとなるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議や日頃のカンファレンスなどで、入居者様がより良い生活を過ごすことが出来るように職員同士で話し合っている。現在は新型コロナウイルスの影響から会議などは中止とし、書面でのやり取りで介護計画に反映できるように努めている。	3か月毎に介護計画を見直し、本人、家族の意向、健康面の指示や情報を検討している。介護経過記録(日々の記録)で計画に対しての実践を確認し、モニタリングを通して全職員の意見を集約し、個々の状態像や課題に沿った計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の入居者様の変化やケアの実践内容や経過を具体的に記録している。また、職員間で情報を共有出来るように申し送りノートなども活用し、統一した対応となるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様や家族様の要望や希望を聞き取り、可能な限り叶えることが出来るようにサービスの提供と支援に努めている。また、何気ない会話などから汲み取るようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化祭での展示発表、地域ボランティア様による演芸披露会など、地域資源を活用させていただいている。現在は、新型コロナウイルスの感染予防から、全ての活動を中止としている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	入居者様や家族様の希望に添った医療機関を受診している。それ以外の方は協力医療機関と契約し、居宅療養管理指導を受けている。医療機関とは常に連携を図り、特変などが見られた時は直ぐに医療機関に相談し、適切な医療が受けられるよう努めている。	利用者、家族と話し合い、協力医療機関の月2回の往診、週1回の訪問看護を利用している。専門科などの受診は職員が付き添い、薬の変更など家族に報告し、受診結果を共有している。医療機関とは随時連絡を取り、適切な医療が受けられるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関による訪問診療、訪問看護などで体調の変化を報告し、入居者様が適切な医療が受けられるように支援している。入居者様の急変時に対する対応方法なども相談し、夜間帯も直接看護師に連絡できる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、医療機関側に入居者様の普段の様子、介助方法などを口頭説明や書面も提出し、安心して治療が受けられるよう支援し、早期退院ができるように努めている。また、職員が可能な限り面会に行き、家族様に現状の理解と状況の確認などの報告をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については、事前に家族様及び入居者様の意向を確認し、可能な範囲で出来ることを行っている。家族様の希望により事業所での看取りを行う際には協力医療機関などに相談し、医師を交え、今後の方向性を話し合い、方針の共有を図っている。	重度化や終末期の対応は、契約時や変化の兆しに即して話し合いの場を設け、利用者、家族の意向を確認している。意向の変化は随時受け止めながら家族の希望に沿い、看取りケアの実践を重ねている。主治医や看護師との連携体制を整え、その人らしい終末を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に避難訓練や救命講習を実施し、起こり得る事故を想定して話している。緊急時の対応については職員間、管理者、リーダーとの話し合いにより、職員一人ひとりが危機管理意識を持つように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練の実施と自主訓練による災害対策、備蓄品の確認等も行っている。訓練の内容は様々なケースを想定し毎月目標を掲げ実施している。現在は、新型コロナウイルスの感染予防として、全体での避難訓練、自主訓練を中止としている。	年2回防災コンサルタント会社の立会い、地域住民の参加協力のもと、昼・夜を想定した避難訓練の実施とユニット毎に毎月自主訓練を行っている。令和元年に防災無線や大型発電機が設置され、非常用備蓄や備品も各種取り揃え、災害対策の強化に取り組んでいる。	この先の新型コロナウイルス感染の状況や対策を見極め、年2回の避難訓練の実施と、地震等の自然災害や様々なケア場面を想定した自主訓練の取り組みを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりに合わせた声量で言葉遣いなどに気を付けている。特に入浴時・排泄時の対応ではプライバシーに配慮した対応や声掛けを意識するよう努めている。	職員は、法人内研修で「接遇とコミュニケーション」を学び、資料の回覧で利用者への対応や言葉使いを確認している。気になる言動は、管理者がその場で注意している。排泄や入浴介助では利用者の立場に立ち、羞恥心やプライバシー、本人が傷つかないよう配慮したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で入居者様一人ひとりとコミュニケーションを図りながら聞き取りを行っている。自己決定することが難しい方は、表情や反応、生活の様子、バックグラウンドを参考にし、自己決定ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の体調・状況に合わせた声掛けで希望や要望を確認し、自ら意思を伝えることが難しい方は家族様と相談・バックグラウンドなどから、その人らしく充実した日が過ごせる支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に衣類を選んだり、その人らしい趣向や好み、馴染みの物を着用することが出来るように働きかけを行っている。選ぶことが難しい方は、バックグラウンドを参考にその人らしい見出しなみが出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの食べ物等を把握し、そこから献立作りに反映させている。季節の食材を使った料理で季節を感じていただけるように努めている。入居者様との食事作り等は、新型コロナウイルスの感染予防から現在は自粛している。	ユニット毎作成のメニューであり、利用者の嗜好や食べたいものを反映しやすく、豊富な食材とメニューで利用者の楽しみの食事になっている。重度化に伴い形態の変更も多いが、見た目にも美味しく感じられるよう工夫している。感染症予防のため使い捨ての食器類を使用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重や血液検査結果等を踏まえ、一人ひとりに適した量を提供できるよう努めている。また、医療機関とも連携し、糖尿病等で血糖値が高い方は助言をいただいたり、栄養バランスが偏らないように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの実施をしており自力で行えない方は介助を行っている。介護用スポンジブラシやうがい用のいらぬ歯磨き粉などを準備し、口腔内が清潔に保てるよう支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握している。立位や歩行が難しい方でも、トイレで排泄が出来るように職員2名で介助を行い、腹圧がかかる対応を心掛けている。安易にオムツに頼ることはせず、個々の状態により、使用するかを常に検討している。	排泄パターンの把握により、定期や仕草を見てトイレに誘導し、失敗が少なくなるよう個別に対応している。夜間帯では必要に応じてオムツやポータブルトイレを使用している。トイレでの排泄を基本に、状況により2名介助で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食物繊維の豊富な食材等も摂取し、薬に頼らず排便が見られるように努めている。下剤を必要とする方には、適切な量を服用することで排便のリズムが保たれている。排便状況は医師に報告し、都度指示を仰いでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間や順番は入居者様の希望を取り入れながら支援している。職員との一対一の空間となるため、会話などで関係性が深まるように支援している。拒否が多い方については、無理強いとならないように注意し、清拭、シャワー浴で対応している。	利用者の身体状況や希望を聞きながら、週2～3回の入浴を支援している。シャワー浴や清拭も状態に応じて行い、清潔の保持に努めている。言葉掛けの工夫で拒む人も気持ちよい入浴につなげ、湯舟でリラックスできるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの様子や体調に合わせて、休息時間を設けている。日中に外出等の活動を多く取り入れることで夜間の安眠に繋がるように努めている。現在は新型コロナウイルスの感染予防から外出行事などは控えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止のため、氏名・日付の読み上げを職員2名以上で行い、本人が飲み込むまでの確認を行っている。服薬支援は法人内で取り決めた基本事項を厳守している。職員個々が入居者様の薬の内容把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員の押し付けにならないよう、配慮しながら継続的に家事参加・余暇活動の支援などに参加していただいている。現在は新型コロナウイルスの感染予防から自粛傾向にある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り一人ひとりの希望に沿った外出支援を行っている。直ぐに実施できない場合等は家族様と相談したり、日を改めて対応している。日常的な外出支援として、ホーム周辺の散歩やホーム近くのお店に買い物に行く等の支援を行っている。現在、新型コロナウイルスの影響から、外出支援は控えている。	日常の中で近隣の散歩やコンビニに出掛け、体調や天候に配慮し、重度の利用者も車椅子で庭先で外気浴をしている。専属運転手付きのバスで周辺地のドライブや、家族とともに外食などに出掛ける利用者もいる。感染症防止対策で外出は難しい状況だが、窓から桜や木々を眺めたり、空気の入替えをして気分転換に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理している入居者様はおらず、事業所側で管理している。入居者様からの要望や希望が聞かれた場合には、買い物時や受診時などで自由に使えることを伝え支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	職員が取り次ぎをすることで家族様とお話しされることがある。手紙を書きたいという希望が見られた時は、やり取りができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く施設で生活していただけるようテレビの音量や職員は声量などに注意し、安心していただける環境作りを努めている。室内の温度調整や空調管理、臭いに配慮している。季節感が感じられるよう、季節に応じた掲示物・絵・写真を飾るなどの工夫をし、居心地良く過ごせるように努めている。	テレビなどの音量や温・湿度、換気に注意し、安全面と心地よく過ごせる環境に配慮している。写真や装飾は季節感のあるものを掲示している。日中は居間で過ごす利用者が多く、大きなソファや食卓のそれぞれの定位置で自由に寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様一人ひとりに安心できる居場所があり、生活リズムや状況に合わせてゆっくり寛ぐことが出来るよう、ソファやテーブルなどの配置に気を付けるように努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅などで使用していた思い出の物や使い慣れた物を居室に置くことで、以前と大きな変化がない環境作りを行っている。安全面や入居者様の生活歴に合った居室となるよう、本人様や家族様と相談しながら家具の配置などを行っている。	できるだけ以前の環境との差が少なくなるよう、使い慣れた家具や仏壇などが持ち込まれ、家族写真や貰った手紙などを飾っている。室内のレイアウトは、本人の希望と安全に暮らせるためのリスクを検討し、家具の配置を工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、一人ひとりの能力、行動の特徴などを把握し、状況に合わせて、簡易手摺の設置などを行っている。環境面などの整備により、安全で自立した生活が送れるように努めている。		